

## RICH News 発行のお知らせ

特定非営利活動法人 歴史建築保存再生研究所は設立、認証から、実質的な活動をスタートして約 1 年半が経過しました。会員数も予想以上に増加しており、活動も順調に進んでいると思います。今回、活動報告、今後の活動予定などを主な内容とする、RICH Newsを発行することとなりました。会員の皆様からの情報も含め、内容あるものにしていきたいと考えています。

## 平成 16 年度活動報告

平成 16 年度は、NPO 法人としての活動・運営も手探りながらも徐々に軌道にのり、講演会、見学会、また、歴史的建造物調査事業を実施しました。以下に主な活動について概要を報告させていただきます。

### 講演会

#### 「古代製鉄, 工房 (建築) そして遺産保存活動」

- 日時 平成 16 年 7 月 2 日
- 場所 清水建設技術研究所
- 講師 村上恭通 (愛媛大学法文学部助教授)

古代製鉄技術の「たたら」、高殿についてビデオなどを用いて分かりやすく説明がありました。この分野の話は関心が高く、NPO 法人の活動とはこれまであまり関わりのない参加者が非常に多くありました。

また、製塩について瀬戸内の街道にあったとされる「塩の荘園」としての歴史についても触れられ、遺跡の保存活動とそれを活用したまちづくりの活動が結び付けられているとの報告があり、建造物だけにとらわれず、さまざまな形で保存活動がなされていることを知ることができました。(参加者 54 名)



#### 「英国における歴史的建造物の

#### 保存の歩みとその背景」

- 日時 平成 16 年 10 月 5 日
- 場所 清水建設技術研究所
- 講師 大橋竜太

(東京家政学院大学住居学科助教授)

われわれが理想とする英国における建物の保存の制度の変遷について、さまざまな状況、障害があり、それを乗り越えて現在がある、との背景を含めた報告を中心に、日本での登録文化財制度にいたる経緯と今後の展開についての展望の話がありました。また、英国においても保存の考え方が変化しているとも話され、保存の活動は政治的背景を含めて、常に流動的な側面があることも再認識させられました。(参加者 40 名)



## 「建造物修復の実際」

### - 建築保存修復の計画と技術 -」

- 日時 平成 16 年 12 月 14 日
- 場所 清水建設技術研究所
- 参加者 60 名
- 講師 木村 勉 (長岡造形大学教授)

木村先生は前奈良国立文化財研究所 建造物室長として数多くの歴史的建造物の保存修復に関わられており、その事例をもとに、修復計画、修復技術、構造補強技術、復原仕様の考察などについての話がありました。

保存修復の理念に従うばかりでは、必ずしも成り立たないことがあると述べられ、NPO法人として関わる保存修理の実際にとっても関係が深く、参考になる話でした。保存修理の仕様を決定するのは、設計監理者が実施する部分ではありますが、より良い保存修理を進める上で、建物の事前調査段階で、できる限り手順をふまえた調査、提案ができるかが重要であることを再度認識させられた話でした。(参加者 60 名)



## 見学会

### 「旧日向別邸(熱海市)」

- 日時 平成 16 年 11 月 2 日

初めての見学会を、日本カーバイド工業(株)のご厚意により、熱海市にある旧日向別邸にて行いました。当日は、これまで旧日向別邸の調査に関わってこられた杉山経子先生(東京理科大学)の解説を聞きながら主にブルーノ・タウト設計の地下室を見学しました。時間も十分あり、建物のみならず景色も堪能することができました。見学の最後には小野口さん(日本カーバイド工業)に準

備していただいた足湯につかり、とても有意義な見学会でした。

現在、所有は熱海市となり、保存修理の予定もあるようです。NPO法人としても何らかの協力ができればと思います。(参加者 17 名)



### 「近江八幡のヴォーリス作品を中心とした建築群」

- 日時 平成 17 年 2 月 4 日 ~ 5 日

近江八幡にあるヴォーリス建築の見学会を 1 泊 2 日の日程で、道端には雪が残るものの日差しがあり見学には恵まれた天候の中で行われました。1 日目は、ヴォーリス記念館、旧八幡郵便局、八幡商業高等学校の見学、および宿泊ホテルにて、今回、案内役をお願いしました矢ヶ崎善太郎先生(京都工芸繊維大学助教授)に近江八幡の建築についてのご講演を頂きました。また、懇親会には、旧八幡郵便局の再生をはじめとして幅広く活動をされている、NPO法人「一粒の会」のメンバーにも参加をいただき、ヴォーリス建築だけではなくNPO法人の活動についてさまざまな意見交換を行うことができました。



2 日目は、ヴォーリズ記念病院、近江兄弟社学園、池田町洋館街の見学をしました。昨日からヴォーリズの近江八幡との関わりを学習したことから、非常に有意義な見学となりました。今回の見学会は、各地で活動しているNPO法人との関わり、東京を離れて遠隔地での活動の可能性を知る上でとても参考になるものでした。最後に、どの見学建物においても忙しい中、説明、案内をしていただきました「一粒の会」石井和浩理事をはじめ、現地関係者の皆様にお礼申し上げます。(参加者12名)

### 歴史的建造物の保存調査業務

平成 16 年度に実施しました、歴史的建造物の保存修理等に関わる調査業務は以下の通りです。内容について関心のある方は、事務局までお問い合わせください。

- 山口銀行旧本店保存改修工事  
保存改修工事報告書作成指導業務
- 起雲閣洋館(玉姫・玉溪)改修復元工事  
改修復元工事報告書作成指導業務
- 旧日向別邸耐震補強設計・  
保存修復予備調査業務

### サイエンスキャンプ活動 (会員活動の紹介)

法人メンバーである清水建設 技術研究所の歴史建造物チームでは、文部科学省が主催する高校生を対象とし春休みに実施する「スプリング・サイエンスキャンプ」のプログラムとして、技術研究所に全国から 10 人の高校生を招き、平成 17 年 3 月 28 日～30 日まで、二泊三日の「歴史的な建築の保存ワークショップ」を開催しました。メンバーである技術研究所の研究者による指導のもと、「歴史的な建物とは何か」、「実際の歴史的な建物の実測調査実習」、「歴史的な建物の保存・活用提案」等の体験学習を行いました。終了後の高校生へのアンケート結果では、歴史的建造物への関心も高く、今後、このプログラムをNPO法人として取り入れていくことも有効な活動ではないかと思えます。



#### 会員募集のご案内

特定非営利活動法人歴史建築保存再生研究所では、活動主旨に賛同される方、また関心のある方には、ぜひ会員となって活動を支えて頂きたいと思っています。

入会をご検討される方は、下記、問い合わせ先までFAX、またはEメールでご連絡ください。募集要項をお送り致します。

お問い合わせ

特定非営利活動法人歴史建築保存再生研究所 事務局

FAX:03-5245-1996

Eメール: info@npo-rich.jp

## 寄稿

### 「年輪年代法と法隆寺再建論争」

理事長 藤盛紀明

学生時代の建築史授業でもっとも興味深かったものに法隆寺再建・非再建論争があった。法隆寺、別名斑鳩寺は用明天皇が請願し、聖徳太子によって推古15年(607年)ごろ創建されたとされている。日本書記には法隆寺は天智9年(670年)全焼したと記述されており、現在の西院伽藍の創建がこの火災後か否かで再建・非再建論争が起こった。金堂の建築様式の古さから現存法隆寺は7世紀始めの建設とする建築史側の非再建論は納得できるものであったが、現存法隆寺の南東約200mに若草伽藍遺構が発見され、歴史学者の論が勝利したと聞いてがっかりした記憶がある。

ところが2001年奈良文化財研究所の光谷拓実氏が年輪年代法で測定し法隆寺五重塔心柱の伐採年代を594年と発表し、過去の論争が思い出されることとなった。金堂の天井板の伐採年は火災前の668年などの測定結果も出され、市民歴史愛好家を巻き込んだ議論が活発になされた。

2003年五重の塔の垂木や化粧裏板の年輪年代測定結果が624年から663年の伐採と発表され、法隆寺は色々な木材を寄せ集めて消失後まもなく再建されたと言う論にほぼ収まったと思われる。法隆寺の再建論は確定していたが、再建時期が消失後ほどなく(680年頃か?)と言うことが判明したことは大きな成果であった。

「日本と言う国は何時から始まったか」と言う課題は日本古代史に興味ある者全てに共通する課題である。邪馬台国時代の3世紀、倭の五王の5世紀、律令完成の7世紀など議論は活発である。奈良三輪山の麓に突如築造された巨大古墳「箸墓」が日本国発祥(初期ヤマト政権)とする論は勢いを持っている。では箸墓の築造年代は何時か。築造年代の決定には発掘された土器の年代決定が重要である。年輪年代法はこの土器の実年代推定にも大きな影響を与えている。弥生時代の終末に製作された土器に庄内式と称される土器があり、この土

器の後に布留式と呼ばれる土器がある。箸墓には庄内式と布留式の境目(布留ゼロの土器)が発見されている。最近庄内式や布留式土器と同時に発掘された木材の年輪年代がかなりの数測定されている。その結果は従来の考古学の実年代推定より100年ほど古い数字が出されるケースが出ている。

考古学者からは賛否両論百出。年輪年代測定者が光谷氏一人であることへの疑義、伐採年と使用年との差異、木材の転用の可能性などが出されている。自論・持論に好都合なので早速100%賛成の学者、全く拒否反応の学者などであるが、年輪年代法そのものは受け入れるべきと思う。年輪幅パターンが100%一致はしなくとも、もっとも合致する年輪パターンが「決定できれば」利用可能と思われる。最近他の科学的測定法が考古学に適用されている。測定の誤差など適用の限界を良く認知して考古学の発展に寄与されることを期待する。

原稿を募集しています。

歴史建築保存再生研究所では、活動に関連する、経験談・意見・感想・見学手記など、さまざまな原稿を募集しております。原稿の体裁は問いません。事務局までお送りください。よろしくお願いいたします。